

FUJITSU Software

NetCOBOL JEFオプション V7.1L10

リリース情報

Windows

B1WD-3339-01Z0(00)
2015年6月

まえがき

本書は、NetCOBOL JEFオプションのリリース情報について説明します。

NetCOBOLシリーズについて

NetCOBOLシリーズの最新情報については、富士通のサイトをご覧ください。

<http://software.fujitsu.com/jp/cobol/>

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Server、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

略語表記について

本書では、各製品を以下のように略記しています。あらかじめご了承ください。

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Essentials Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation	Windows Server 2012 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation	Windows Server 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2
Windows(R) 8.1 Windows(R) 8.1 Pro Windows(R) 8.1 Enterprise	Windows 8.1
Windows(R) 8 Windows(R) 8 Pro Windows(R) 8 Enterprise	Windows 8
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7
NetCOBOL JEFオプション	JEFオプション

- 以下をすべて指す場合は、「Windows」と表記します。

— Windows Server 2012 R2

- Windows Server 2012
 - Windows Server 2008 R2
 - Windows 8.1
 - Windows 8
 - Windows 7
- Windowsシステムで動作し、32ビットCOBOLアプリケーションを開発・運用するシステムを、「Windows 32bit版 NetCOBOL」または「NetCOBOL」と表記します。
 - Windows 32bit版 NetCOBOLの「COBOL文法書」を「COBOL文法書」と表記します。
 - Windows 32bit版 NetCOBOLの「NetCOBOL ユーザーズガイド」を「NetCOBOL ユーザーズガイド」と表記します。

本書の目的

本書は、NetCOBOL JEFオプションの追加機能の概要、互換に関する情報およびプログラム修正一覧を説明しています。

本書の対象読者

本書は、NetCOBOL JEFオプションをバージョンアップされた方、バージョンアップを検討されている方を対象としています。

前提知識

本書を読むにあたって、特別な知識は必要ありません。

関連マニュアル

この製品のマニュアルには、本書のほかに以下のマニュアルがあります。

- “NetCOBOL JEFオプション ユーザーズガイド”

Windows 32bit版 NetCOBOLで提供されるマニュアルのうち、本製品に関連するマニュアルは以下です。

- リリース情報
- COBOL文法書
- ユーザーズガイド
- ユーザーズガイド(OSIV分散開発編/プロジェクトマネージャ編)
- ユーザーズガイド(OSIV分散開発編/NetCOBOL Studio編)
- NetCOBOL Studioユーザーズガイド
- 入門ガイド
- メッセージ集

輸出管理について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

2015年6月

Copyright 1992-2015 FUJITSU LIMITED

目次

第1章 追加機能の概要.....	1
1.1 NetCOBOL JEFオプション V7.1の追加機能概要.....	1
1.2 NetCOBOL JEFオプション V7.0の追加機能概要.....	4
第2章 互換に関する情報.....	6
2.1 リンカの変更について.....	6
2.2 障害修正に関する互換情報について.....	7
第3章 プログラム修正一覧.....	10
3.1 NetCOBOL JEFオプション開発環境.....	10
3.2 NetCOBOL JEFオプション運用環境.....	11

第1章 追加機能の概要

ここでは、本バージョン・レベルで追加された機能の概要と内容を説明します。

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL JEFオプション (32bit)
- NetCOBOL JEFオプション 運用パッケージ (32bit)

1.1 NetCOBOL JEFオプション V7.1の追加機能概要

表1.1 NetCOBOL JEFオプション V7.1の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V7.1L10	NetCOBOL StudioでのJEFオプションサポート	開発環境として、プロジェクトマネージャに加え、NetCOBOL Studioも利用できるようになりました。	NetCOBOL JEFオプション ユーザーズガイド <ul style="list-style-type: none"> • 3.1.2 文字コードの切換え方法
2	V7.1L10	印刷情報ファイルの用紙サイズ指定サポート	印刷情報ファイルにPAPERSIZEを記述することにより、用紙サイズを指定できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 8.1.12 印刷情報ファイル
3	V7.1L10	用紙サイズ/印刷形式の省略値指定	印刷情報ファイルに用紙サイズ/印刷形式を指定できるようになりました。	NetCOBOL ユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 8.1.12 印刷情報ファイル
4	V7.1L10	翻訳オプション MAIN(MAIN)サポート	DISPLAY文および実行時エラーメッセージの出力先としてシステムのコンソール(コマンドプロンプトウィンドウ)を使用できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • A.3.29 MAIN(主プログラム/副プログラムの指定)
5	V7.1L10	ファイルサイズの拡張	順・索引ファイルのサイズ制限(順ファイルは1GB、索引ファイルは1.7GB)を解除し、システムの制限まで作成できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 7.9 他のファイルシステムの使用方法 • C.2.30 @CBR_FILE_LFS_ACCESS(COBOLファイルのサイズを拡張する指定)
6	V7.1L10	ファイルの高速処理の一括指定サポート	レコード順ファイルに有効となるファイルの高速処理(BSAM)機能を一括して指定できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 7.7.4 ファイルの高速処理
7	V7.1L10	DISPLAY文のイベントログ出力サポート	DISPLAY文の出力先として、イベントログを指定できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 11.1 小入出力機能 • C.2.16 @CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時のイベント種類指定) • C.2.17 @CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_SRCNAME(

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
				<p>DISPLAY UPON CONSOLE のイベントログ出力時のイベントソース名指定)</p> <ul style="list-style-type: none"> • C.2.18 @CBR_DISPLAY_CONSOLE_OUTPUT(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力指定) • C.2.19 @CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベント種類指定) • C.2.20 @CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベントソース名指定) • C.2.21 @CBR_DISPLAY_SYSERR_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力指定)” • C.2.22 @CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_LEVEL (DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベント種類指定) • C.2.23 @CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_SRCNAME (DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベントソース名指定) • C.2.24 @CBR_DISPLAY_SYSOUT_OUTPUT (DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力指定)
8	V7.1L10	CHECK機能抑止の実行時オプションサポート	<p>CHECK機能を抑止する下記の実行時オプションをサポートしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • nocb :CHECK(BOUND) • noci :CHECK(ICONF) • nocl :CHECK(LINKAGE) • nocn : CHECK(NUMERIC) 	<p>NetCOBOLユーザーズガイド(*1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5.8 実行時オプション

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
			<ul style="list-style-type: none"> • nocp :CHECK(PRM) 	
9	V7.1L10	TRACE機能抑止の実行時オプションサポート	TRACE機能を抑止する実行時オプション"nor"をサポートしました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 5.8 実行時オプション
10	V7.1L10	トレース情報ファイルのマルチプロセスサポート	トレース情報ファイルをプロセス毎に出力できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 21.4.2トレース情報
11	V7.1L10	診断機能によるアプリケーションエラーメッセージ出力サポート	アプリケーションエラーの発生によって診断機能が起動した場合、JMW0099I-Uのメッセージを出力するようになりました。これにより、アプリケーションエラーの発生を容易に認知できるようになりました。	メッセージ集(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 5章 診断機能のメッセージ
12	V7.1L10	診断機能強化	アプリケーションエラーまたはUレベルの実行時メッセージが出力された場合に、診断レポートと共にダンプを出力できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 22.1 診断機能
13	V7.1L10	DISPLAY文の機能名SYSERR抑止サポート	DISPLAY文の機能名SYSERRに対応付けた呼び名に対して、出力を抑止できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • C.2.67 @NoMessage (実行時メッセージおよびSYSERRの出力抑止指定)
14	V7.1L10	IPv6サポート	以下の機能において、IPv6形式のIPアドレスをサポートしました。 <ul style="list-style-type: none"> • 簡易アプリ間通信 	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 表16.2 簡易アプリ間通信機能のIPv6対応
15	V7.1L10	サブルーチンの追加	動的にメモリを割り当てる／解放するサブルーチン、ならびにプロセスを強制的に終了させるサブルーチンを提供します。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • I.2.1 COB_ALLOC_MEMORY(メモリ割当てサブルーチン) • I.2.4 COB_FREE_MEMORY(メモリ解放サブルーチン) • I.2.3 COB_EXIT_PROCESS(プロセス終了サブルーチン)
16	V7.1L10	ファイル機能強化	以下の機能をサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> • ダミーファイル 	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • 7.7.7 ダミーファイル • H.4.35 ファイルの機能
17	V7.1L10	COUNT情報ファイルの追加書き	COUNT情報を既存のファイルに追加出力できます。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • C.2.87 SYSCOUNT (COUNT情報の出力ファイルの指定)
18	V7.1L10	任意日付取得機能	COBOLアプリケーションで取得する日付に、任意の日付を指定できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> • C.2.35 @CBR_JOBDATE(任意の日付を取得)

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
				<ul style="list-style-type: none"> 11.1.8 任意の日付を入力 H.1.4 組込み関数の便利な使い方
19	V7.1L10	ファイル連結/追加書き機能	アプリケーションプログラムを起動する前に手動で操作していたファイルの連結や追加書き処理をサポートしました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> 7.7.5 ファイル追加書き 7.7.6 ファイルの連結
20	V7.1L10	実行時メッセージの改善	COBOLプログラムの行番号を実行時メッセージで出力することにより、エラーの検出箇所がわかりやすくなりました。 また、実行時メッセージの重大度の指定が可能になり、運用環境に合わせたメッセージの出力ができるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> C.2.38 @CBR_MESS_LEVEL_CONSOLE(実行時メッセージの重大度指定) C.2.39 @CBR_MESS_LEVEL_EVENTLOG(実行時メッセージの重大度指定) メッセージ集(*1)
21	V7.1L10	BSAM指定ファイルの定量制限(最大サイズ)を拡大	BSAMオプション指定時のファイルの定量制限を4ギガバイトから制限なし(NTFSの場合の32ビットWindowsシステムの限界まで)に拡大しました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> 7.9 他のファイルシステムの使用法
22	V7.1L10	GS分散開発強化	GS分散開発強化OSIV系のCOBOL85の固有仕様や旧仕様に合わせて解釈する翻訳オプションを実装しました。 これにより、オープン系固有のCOBOL言語仕様をチェックアウトし、GS分散開発時のコーディングを効率よく行えるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド(*1) <ul style="list-style-type: none"> A.3.18 FLAGSW (COBOL文法の言語要素に対しての指摘メッセージ表示の可否)

*1 : Windows 32bit版 NetCOBOL V11に含まれるドキュメントです。

1.2 NetCOBOL JEFオプション V7.0の追加機能概要

表1.2 NetCOBOL JEFオプション V7.0の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V7.0L30	新OSサポート	Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012およびWindows Server 2012 R2での動作をサポートしました。	-
2	V7.0L30	富士通共通ツール	富士通ミドルウェアのアンインストールと管理に対応しました。	ソフトウェア説明書 <ul style="list-style-type: none"> インストール/アンインストール 本体製品パッケージのインストールガイド

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
3	V7.0L20	新OSサポート	Windows 7およびWindows Server 2008での動作をサポートしました。	-
4	V7.0L20	Windows Vistaサポート	Windows Vista での動作をサポートしました。	-

第2章 互換に関する情報

ここでは、以前のバージョン・レベルから変更された互換に関する情報を記載します。

2.1 リンカの変更について

V7.1L10より、使用するMicrosoft社製リンカのバージョンを変更します。留意すべきリンカの仕様変更は以下のとおりです。

- 外部シンボルのコード系の変更(シフトJISからUnicode)

V7.0L30以前で使用するリンカ(以降では旧リンカと呼びます)は、外部シンボルの文字コードをシフトJISとして処理していましたが、V7.1L10以降で使用するリンカ(以降では新リンカと呼びます)は、外部シンボルの文字コードをUnicodeとして処理します。

- Cランタイムライブラリの変更(LIBC.LIBからMSVCRT.LIB)

旧リンカは、Cランタイムライブラリとして、LIBC.LIBを指定していましたが、新リンカは、MSVCRT.LIBを指定します。

- リンクオプション/DYNAMICBASEの追加

新リンカは、旧リンカのオプションに無かった/DYNAMICBASE(アドレス空間ランダム化、以降ではASLRと呼びます)が既定で有効となります。/DYNAMICBASEを有効にしてリンクした場合、実行時にCOBOLプログラムが異常終了することがあります。

- リンクオプション/DEBUGTYPEの削除

新リンカでは指定可能なオプションから/DEBUGTYPEが削除されました。これによりデバッグ時、/DEBUGTYPEと排他関係にあった/INCREMENTAL(インクリメンタル・リンク)が有効になります。インクリメンタル・リンクした場合、実行時にCOBOLプログラムが異常終了することがあります。

- ワーニングの強化

ASCII範囲外のファイル名に対して、以下のようなワーニングメッセージ(LNK4232)が出力されるようになります。

```
LINK : warning LNK4232: 名前 あいうえお.dll に ASCII 文字以外の文字が含まれています。932 以外の ANSI コードページを使用すると、DLL をシステムに読み込めない可能性があります。
```

実行時コード系がシフトJISのDLLを、シフトJIS以外の環境で動作させた場合、DLL名にASCII範囲外の文字が含まれていると、正しく呼び出せない可能性があります。動作環境がシフトJIS以外でかつ、実行時コード系がシフトJISのDLLを作成する場合、COBOLソースファイル名をASCII範囲の文字で構成するか、または、リンクオプション /OUTを指定し、出力ファイル名をASCII範囲内の文字で構成してください。

変更点

リンカの仕様変更に伴い、本体製品のNetCOBOLでは以下の対処をします。

- 開発環境(*1)の既定値を変更

- Cランタイムライブラリ

NetCOBOL V10.5.0以前ではCランタイムライブラリとしてLIBC.LIBを指定していましたが、V11.0.0以降では、MSVCRT.LIBを指定します。

- 既定のリンクオプションを追加

NetCOBOL V11.0.0以降の開発環境では、既定でASLRを無効(/DYNAMICBASE:NO)とします。

*1:NetCOBOL Studio、プロジェクトマネージャ

- NetCOBOLコマンドプロンプトの提供

MAKEファイルおよびバッチファイルを使用して、COBOLプログラムを翻訳・リンクする場合、V10.5.0以前ではシステムのコマンドプロンプトを使用していましたが、V11.0.0以降では、新たに提供するNetCOBOLコマンドプロンプトを使用します。NetCOBOLコマンドプロンプトでは、既定で以下のリンクオプションを設定します。

- /DYNAMICBASE:NO

- /INCREMENTAL:NO

影響および対処方法

以下の条件に該当する場合、対処をお願いします。

- ASCII範囲外の文字を含む外部名(*2)を持つプログラムは新リンカでリンクできません。

[対処方法]

ASCII範囲外の文字を含む外部名を持つプログラムおよびこれを呼び出すプログラムは、外部名および外部名を参照する箇所をASCII範囲内の文字で構成するよう修正してください。ASCII範囲外の文字を含む外部名を持つプログラムが不明な場合は、チェックツール(ASCIICLK.exe)を使用してください。

*2: プログラム名、クラス名、メソッド名、プロパティ名、二次入口点名

- MAKEファイルおよびバッチファイルを使用する場合

V7.1L10以降では、以下の記述があるMAKEファイルとバッチファイルは使用できません。

- CランタイムライブラリとしてLIBC.LIBを指定
- リンクオプションに/DEBUGTYPEを指定

[対処方法]

MAKEファイル、バッチファイルを以下のように修正してください。

- 「LIBC.LIB」と記述した箇所を「MSVCRT.LIB」に修正
- リンクオプションから/DEBUGTYPEを削除

- ビルドされたアプリケーションに100個程度以上のDLLが含まれる場合

V7.1L10以降でビルドされたアプリケーションに100個程度以上のDLLが存在する場合、FLSの枯渇が発生しDLLのロードに失敗する場合があります。

[対処方法]

- DLLがCOBOLだけで作成されている場合
リンク時、「MSVCRT.LIB」の指定をやめ、リンクオプション「/NOENTRY」を指定してDLLを作成してください。
- DLLがCOBOLとCで作成されている場合
 - 同一のDLLにする場合
リンク時、「MSVCRT.LIB」を指定してDLLを作成してください。Cプログラムを翻訳オプション「/MT」で翻訳している場合、「/MD」を指定して再翻訳してください。
 - 別々のDLLにする場合
COBOLのDLL作成時、「MSVCRT.LIB」を指定せず、リンクオプション「/NOENTRY」を指定してDLLを作成してください。CのDLL作成時、翻訳オプション「/MD」を指定して翻訳しDLLを作成してください。

- NetCOBOL以外の開発環境を使用する場合

NetCOBOL V11.0.0で提供する開発環境(NetCOBOL Studio、プロジェクトマネージャ、NetCOBOLコマンドプロンプト)以外の開発環境を使用する場合、以下のリンクオプションが有効となり、実行時にCOBOLプログラムが異常終了する場合があります。

- /DYNAMICBASE
- /INCREMENTAL

[対処方法]

リンクオプション/DYNAMICBASE:NO、/INCREMENTAL:NOを指定してください。または、NetCOBOL開発環境を使ってリンクしてください。

2.2 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL JEFオプション V7.0L20以降で修正された障害により動作が変わるものを以下の表で説明します。

表2.1 障害修正に関する互換情報

項番	VL(注)	P番号	変更内容
1	V20L10 ～ V7.0L30	PG73222	<p>以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、以下のメッセージを出力して異常終了する場合がある問題を修正しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>JMP0086I-U 文字コードの変換に失敗しました。CODE=0x459</p> </div> <p>[環境] V7.0L30以前のJEFオプションのコンパイラを使用して翻訳したCOBOLプログラムとV10.0.0以降のNetCOBOLランタイムを組み合わせで動作させている場合。</p> <p>[条件] 1. JEFオプションのコンパイラで翻訳している。かつ 2. EXTERNAL句指定のファイルを使用している。かつ 3. 2.のファイル名に日本語を使用している場合。</p> <p>[対処] 条件に該当するすべてのCOBOLプログラムをV7.1L10以降のJEFオプションのコンパイラで再翻訳・再リンクしてください。</p> <p>【補足】 条件に該当するプログラムでも、正常に動作する場合があります。正常に動作する・しないにかかわらず条件に該当するプログラムは再翻訳・再リンクしてください。V7.0L30以前のコンパイラで生成した目的プログラムと、V7.1L10以降のコンパイラで生成した目的プログラムを混在させて実行した場合、外部ファイルの解決処理が正しく行われなため、COBOLプログラムの実行時に、以下のメッセージを出力して異常終了するようになります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>JMP0330I-U '*****' ファイルの'*****' 文で、実行順序の誤りが発生しました。 'NOT-OPENED'. PGM=*****. LINE=*****</p> </div>
2	V7.0L20	P806637	<p>以下の条件の場合、実行時に領域破壊をおこす問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 内部ブールの転記において、受取り側と送出し側のビット列長が4ビットである。かつ、 受取り側と送出し側のバイト内相対ビット位置が次のような場合。 <ul style="list-style-type: none"> — p1:受取り側バイト内相対ビット位置 = 4 — p2:送出し側バイト内相対ビット位置 = 0 <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">★の領域が正しくない値となる場合があります。</p> </div>
3	V7.0L20	PG24836	<p>以下の算術文の場合、受取り側項目(符号なしデータ項目)に、符号付きのデータが格納されてしまう問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の形式のCOMPUTE文またはADD文が存在する。かつ、

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <pre>ADD ITEM-1 TO ITEM-2. ADD ITEM-1 TO ITEM-2 GIVING ITEM-2. ADD ITEM-2 TO ITEM-1 GIVING ITEM-2. COMPUTE ITEM-2 = ITEM-2 + ITEM-1.</pre> </div> <p>2. 1.において、ITEM-1とITEM-2の属性が以下である。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> － ITEM-1:2進、5～7桁 － ITEM-2:内部10進、7桁以下、符号無し <p>3. 次が成立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> － ITEM-1の小数部=ITEM-2の小数部である。かつ、 － ITEM-2の全桁数≥ITEM-1の全桁数である。かつ、 － TRUNCオプションが指定されていない。かつ、 － ROUNDED句の指定がない。かつ、 － [NOT] ON SIZE ERRORの指定がない。
4	V7.0L20	PG29813	<p>以下の条件の場合、内部ブール項目の比較が正しく行われたい問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションOPTIMIZEを指定している。かつ、 2. IF文やEVALUATE文などで条件式を連続して記述している。 または、 複合条件を記述している。かつ、 3. 2.の連続した条件式は以下の比較である。 <ul style="list-style-type: none"> － 内部ブール項目と定数の比較 － 内部ブール項目の条件名による比較 <p>かつ、</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 3.のそれぞれの条件で使用されている内部ブール項目が同一バイト内に存在する場合。
5	V7.0L20	PG49000	<p>以下の条件の場合、実行時にSQL文の処理結果が意図しないものとなる問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COBOLのデータベース機能(ODBC接続)を使用している。かつ、 2. 1つの埋込みSQL文を複数行に渡って記述している。かつ、 3. 2.の埋込みSQL文中に文字列定数を記述している。かつ、 4. 文字列定数の終端を表すシングルクォーテーションがB領域の右端(直後に改行)に位置している。かつ、 5. 次行に以下のいずれかの条件に当てはまるSQL文を記述している。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 最終トークンが4.と同条件の文字列定数ではない場合、有効バイト数(*1)123バイトのSQL文。 2. 最終トークンが4.と同条件の文字列定数である場合、有効バイト数(*1)124バイトのSQL文。 <p>*1: 連続した空白は1バイトとみなします。</p>

注: VLは、障害が存在する範囲を示します。NetCOBOL JEFオプションのVLを記載しています。

第3章 プログラム修正一覧

ここでは、本バージョン・レベルで修正された障害修正の情報を説明します。

3.1 NetCOBOL JEFオプション開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL JEFオプション (32bit)

表3.1 NetCOBOL JEFオプションのプログラム修正一覧

項番	VL(注)	P番号	現象
1	V30L10 ～ V7.0L30	PG64323	<p>以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、データ項目への値の設定または参照が正しく行われなことがある場合があります。例えば、以下の現象となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「SET ADDRESS OF 一意名」でアドレスを変更したレコードの値を設定または参照するとき、変更前のアドレスでアクセスしてしまう。 • プログラム呼び出しの復帰値が正しく受け取れない。 <p>[環境] 特定の環境はありません。</p> <p>InterstageのアプリケーションをCOBOLで作成している場合、発生条件である「ADDRESS OF 一意名」を記述している可能性があります。</p> <p>[条件] 手続き部に「ADDRESS OF 一意名」を記述している場合。</p>
2	V20L10 ～ V7.0L30	PG73222	<p>以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、以下のメッセージを出力して異常終了する場合があります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>JMP0086I-U 文字コードの変換に失敗しました。CODE=0x459</p> </div> <p>[環境] V7.0L30以前のJEFオプションのコンパイラを使用して翻訳したCOBOLプログラムと V10.0.0以降のNetCOBOLランタイムを組み合わせで動作させている場合。</p> <p>[条件] 1. JEFオプションのコンパイラで翻訳している。かつ 2. EXTERNAL句指定のファイルを使用している。かつ 3. 2.のファイル名に日本語を使用している場合。</p> <p>【補足】 条件に該当するプログラムでも、正常に動作する場合があります。正常に動作する・しないにかかわらず条件に該当するプログラムは再翻訳・再リンクしてください。V7.0L30以前のコンパイラで生成した目的プログラムと、V7.1L10以降のコンパイラで生成した目的プログラムを混在させて実行した場合、外部ファイルの解決処理が正しく行われないため、COBOLプログラムの実行時に、以下のメッセージを出力して異常終了するようになります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>JMP0330I-U '*****' ファイルの'*****' 文で、実行順序の誤りが発生しました。 'NOT-OPENED'. PGM=*****. LINE=*****</p> </div>

注: VLは障害が存在する範囲を示します。

3.2 NetCOBOL JEFオプション運用環境

NetCOBOL JEFオプション運用環境のプログラム修正一覧は、本体製品であるWindows 32bit版 NetCOBOL “リリース情報”の“3.2 NetCOBOL運用環境”を参照してください。